

学校運営協議会 議事録

学校名	大阪府立大阪南視覚支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	平成 30 年 12 月 4 日（火）10：40 ～ 11：30
開催場所	府立大阪南視覚支援学校 校長室
出席者（委員）	委員長、副委員長、委員 4 名
出席者（学校）	校長、教頭 2 名、事務部長、課長補佐、首席 4 名、部主事 4 名、教務部長
傍聴者	なし
協議資料	平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価について 専修部案内 「本校教員の白杖が電車のドアに挟まれた件について」 委員意見書「電車（車輦）の引きずり事故防止検知装置の開発」
備考	

議題等（次第順）
<p>授業見学</p> <p>（1）幼稚部 遊戯</p> <p>（2）専修部 各科の授業</p> <p>協議</p> <p>（1）専修部の職業教育について（専修部部主事）</p> <p>（2）平成 30 年度学校経営計画及び学校評価の取り組み状況について（校長）</p> <p>報告</p> <p>（1）学校行事・児童生徒の活躍について</p> <p>（2）通学路の安全について</p> <p>（3）平成 31 年度 学級編制について（教務部長）</p> <p>給食試食会</p>
協議内容・承認事項等（意見の概要）
<p>協議</p> <p>（1）専修部の職業教育について（専修部主事）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校専修部の概要について                     <p>本校専修部はは視覚障がい者のあん摩あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうのほか、理学療法、柔道整復といった医療系学科からなる。保健理療科、理療科は大阪北視覚支援学校にもあり大阪府で両校で通学の区割をしている。理学療法科と柔道整復科は府全体が校区となる。</p> </li> <li>・各学科について                     <p>保健理療科は、あん摩マッサージ指圧に特化し、理療科は、それに加え、はり、きゅうを学ぶ。保健理療科は、理療科に比べて余裕をもって学ぶことができる。進路はあんまマッサージ指圧師のみの資格でもヘルスキーパーや、機能訓練指導員として老人施設などに就職している。理療科は治</p> </li> </ul>

療の幅が広がるほか、筑波大学の理療科教員養成課程への進学も可能である。

理学療法科は、病院や老人保健施設、小児施設などでリハビリテーションに携わる理学療法士を養成している。

柔道整復科は、骨折・脱臼・ねん挫などの急性期外相の治療に携わる柔道整復師を養成している。今年の3月に第1期生が卒業したばかりである。

・各学科の抱える課題について

全学科共通している課題は、入学志願者数の減少である。10年前に比べて1/3以下となっており、その対策として啓発活動等を行っている。先日行ったオープンスクールには15組が来校されたが、その内3組は視能訓練士、高校教員、大学院で視覚障がい教育を学んでいる学生であり、直接は就学につながらない方であった。しかし、そういった方々がどこかで本校のことを話していただき就学に結ぶことを期待している。

理療科、保健理療科の喫緊の課題は、国家試験が2020年頃から変わる可能性があることで、問題数が現在の150問から165問に増加する。また、現在の全問4択形式から20問が5択形式になるといわれている。先日、変更に向けての試行試験を本校も協力して行ったが、この試行試験で大きな問題がなければ、問題数を増やす方針である。変更理由は資質向上のためといわれているが、これらは文字処理能力や情報処理能力が苦手な視覚障がい者にとって明らかに不利になる。

理学療法科の課題は、平成32年度からカリキュラムが変更となることで、現在、筑波大学附属視覚特別支援学校と情報交換しながらカリキュラム編成を進めている。

柔道整復科の課題は、施術管理者に関する法改正があり、今年4月から平成34年3月までに開設届（保険取扱いするための届）を提出する場合、既に開設されている施術所で1年間以上の実務経験および2日程度の研修を受講しなければならない。また、平成34年4月～平成36年3月に開設届を出す場合は2年間の実務経験と2日程度の研修を受講しなければならないなどの要件が設けられ、国家資格を取得し開業をめざしたくても要件を満たすのに6年もかかるのでは免許取得者があきらめるケースが増えてくる恐れがある。そのほか、国家試験で昨年度5人中3人しか合格できなかった。230問の試験の内必修問題50問は8割以上、それ以外も6割以上をとらなければならない。この8割以上の課題が大変厳しかったようである。さらに2、3年後には230問から250問に増加する話があり大きな課題である。

(委員からの質問等なし)

(2) 平成30年度学校経営計画及び学校評価の取り組み状況について（校長）

・本校の目指す学校像

1. 安全で安心な学校、2. センター低機能を果たす学校、3. 専門性の高いプロ意識を持った学校、4. 社会に貢献する人材を育成する学校という4つである。

・中期目標の概要について

ICTについては、特に力を入れている所であり、今年度は、ライオンズクラブから寄贈して頂いた3Dプリンタを導入し、活用している。夏季休業中には教員対象のICT研修会も行った。H31年1月28、29日に開催される日本弱視教育研究大会でも3Dプリンタを紹介する。

教育課程については、今年H30年度から幼稚部の教育要領が改訂され、それに基づいた教育を行っているところである。32年からは小学部、33年からは中学部、34年からは高等部、専修部も年次

進行で改訂されていく。移行期間である現在は視覚障がい教育をしっかりと行っていくための準備を進めている。

地域支援は、教育支援部が中心になって小中学校を中心に幼稚園・保育所、高校、大学など様々な施設での支援を行っている。

今年は幼児児童生徒数が 100 人を割り込み、今後さらに減少することが見込まれている。これは視覚支援学校の全国的な傾向である。本校では現在、小学部 1 年と理学療法科 2 年がゼロ学級になっている。空白学年があると、つながりが持てない問題があり、これを無くすように本校の啓発をしながら地域支援を行っている。

点字指導、歩行訓練といった専門性の維持、向上に対しては、本校に新転任してきた教員の点字研修や歩行訓練はを年度初めに集中して行っている。

職業自立については専修部が中心になるが、中学部や高等部でも職場見学・実習を行って、今後の進路を見つめられる機会をつくっている。特に専修部では、全員卒業させて国家試験に合格させて 100%の就職をめざして取り組んでいる。

(委員からの質問等なし)

## 報告

### (1) 学校行事・児童生徒の活躍について (教頭)

#### ・ 2 学期間の学校行事について

9 月に商学部、中学部、高等部で宿泊学習を実施した。

9 月 19 日～21 日に中学部では東京ディズニーランドへ修学旅行に行った。

10 月 27 日 (土) に幼稚部から高等部及び専修部の融資により文化祭が開催された。

11 月 15 日～ 16 日) に小学部では三重県鳥羽方面へ修学旅行に行った。

#### ・ 生徒の活躍について

7 月 17 日 近畿盲学校水泳大会 (和歌山県) で中学部から専修部まで多数入賞した。

8 月 22 日～24 日 全国盲学校フロアバレー大会が福岡県で行われ、決勝戦で敗れ 2 位だった。

10 月 5 日 第 87 回全国盲学校弁論大会が福島県で行われ、柔整科 1 年の阿部亮介さんが優勝した。

(資料：全国弁論大会の点字毎日の新聞)

校長室に優勝旗を飾っている。

### (2) 通学路の安全について (教頭)

#### ・ 登下校時の安全について

7 月にスーパーのライフが隣に開店してから、特に正門前の歩道の通行量が増加した。本校では、下校時に当たる夕方 16 時から 18 時まで警備員を配置し安全確保を図っている。この間、1 件接触案件を聞いているが大事には至っていない。

#### ・ 電車通学の安全について

JR 我孫子町駅は夕方 18 時まで駅のホームに安全員を配置してくれている。ホームドアがない上に、ホームが狭いため非常に危ない状況に変わりはない。

#### ・ 通学路での事故について

中学部の生徒が朝の登校時に、南海我孫子前方面から本校への通学途中にあるマンションの前で、

歩道の点字ブロック上にはみ出していた自転車と接触して転倒した。ケガは軽症であったが、住吉警察、住吉工営所に報告している。現在は整理されてはみ出してはいない。

・委員意見書「電車（車輛）の引きずり事故防止検知装置の開発」について（委員）

第1回学校運営協議会で3月にJR我孫子町駅のドアで白杖をはさむ事故があったとの報告があった。行政保安委員法の第4条に基づき、総務大臣に申請した。JR西日本では取り組んでいないが、JR東日本では、ドアが閉まった時に、何か挟まっていないかの感度を上げる技術開発が4、5年前から行われている。ドアの挟む部分のゴム内の内圧センサーが開発中であり、時間はかかると思うが、開発されれば、全国的に規格変更になるということである。根気よく、総務省近畿管区行政評価局から近畿運輸局の方へ話をしてもらうことになっている。又何か変わった動きがあれば報告する。

（補足）本校でも定期的にJR、南海職員が来校され、支援室を中心に協議を行っている。（教頭）

（3）平成31年度 学級編制について（教務部長）

- ・1学期に教科書についてご説明したが、教科書については全て採択された。
- ・来年度学級編制について、協議でもあったように学校の児童生徒数が減っており、教務としても学校見学会、オープンスクールについてホームページに載せたり教育委員会に文書を送ったりして広報活動を行っている。

次年度、幼稚部では2名が卒業するが地域の小学校に入学するため、本校の小学部には入学しないため、小学部への入学予定はない。幼稚部へは2名入る予定で、在籍者に変更はない。小学部は、外部から小4が1名入る予定である。中学部は6名が卒業し、2名が入学する。また、外部から2名が入る予定であるため、合計2名減となる。高等部は、中学部から6名入学し、外部からも数名入る予定であるため、来年度は15～17名になると見込まれる。専修部では、28名が卒業し入学者は大幅に下回る予想され大幅減となる見通しである。

- ・次年度の小中高の新入予定者は、教育支援部が訪問教育を行っている先であり、訪問教育の力が非常に大きい。訪問による丁寧な点字指導や歩行訓練等により、本校への入学につながっていると考える。

次回の会議日程

日時	平成31年 2月 28日（木） : ~ :
場所	府立大阪南視覚支援学校 校長室